令和７年度 静岡県立吉田特別支援学校

第４回 学校運営協議会　議事録

１　日　時　　令和８年２月13日（金）　午前９時30分から午前11時30分まで

２　会　場　　吉田特別支援学校　会議室

３　参加者

〇委員

駿遠学園管理組合園長	藁科　知行　様	
浜松学院大学教授	山田　浩昭　様	
木村飲料株式会社　常務取締役	木村　祥吾　様	
ハイナン農業協同組合　流通販売部長	峯野　利也　様	欠席
吉田町片岡区　自治会長	伊吹　雅夫　様	欠席
保護者代表	佐塚　由香　様	

〇アドバイザー

吉田町教育委員会　学校教育課　浅井　　健　様　　欠席

〇学校職員

校　長　伊藤　聖子	副校長　松本　比呂美	事務長　土戸　美樹
教　頭　鈴木　淳也	分教室教頭　杉本　友紀乃	小学部主事　和田　加恵子
中学部主事　小野田　朋弘	高等部主事　菅野　圭	肢体訪問統括　安池　郁乃
教務主任　松浦　ゆか	ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　岡本　広美	情報教育課長　多々良　祐人
進路指導主事　中村　研司		

４　議事録

（１）　校長挨拶

　現在、周囲ではインフルエンザ等の流行が懸念されているが、本校では学級閉鎖は１クラスだけで済み、落ち着いた環境で「学習のまとめ」の時期を過ごせている。10周年記念行事では、皆様のお力添えにより大成功を収めることができた。特に、地域からの来校者数が初めて保護者数を上回ったことは、本校が地域と共に歩んできた10年の確かな成果であり、次の10年への力強い第一歩となった。これを通過点とし、学校をさらに発展させていきたいと考えている。

（２）　報告

【吉田町の特色を生かしたコミュニティスクールの推進を目指して～今年度の成果と課題～】

1. 地域連携課より

「ボランティア先生」の取り組みでは、 地域の専門家による授業が、児童生徒の興味・関心を大きく引き出した。教員からは「陶芸」や「運動」など、専門的な技能を有する地域人材への期待が高まっている。10 周年行事では地域からの来場者が初めて保護者数を上回り、本校が地域コミュニティの核として認知されるよい機会となった。今後も島田商業高等学校との継続的な連携を図るとともに、「表情の見えるコミュニケーション」を大切にした交流を推進していきたい。

2. 情報教育課より

ICT 活用により、集中力の向上や自分の気持ちを伝える手段の獲得という成果が見られた。映像記録の活用や生成 AI の導入準備を進め、より分かりやすい学びの実現を目指している。 高等部では、「BYOD」を推進し、卒業後を見据えて必要なスキルや情報リテラシーを育んでいきたい。

3. キャリア教育課より

進路担当より本校・分教室の中学部、本校高等部の進路状況について、 一人ひとりの特性に応じた進路支援を行ってきたことを報告した。最近では「施設外就労」など働き方の選択肢も広がっており、行政・福祉・企業と強固なネットワークを構築しながら、「どこで学ぶのことが本人にとって最適か」を最優先に考え、卒業後も地域で安心して生活できるよう進路指導していきたい。

【学校運営協議会委員の皆様からのご感想・ご意見】

・地域と共にある学校（まちづくりへの参画）への期待がある。本校が吉田町にあることは一つの使命である。受け身でなく、学校側から積極的に情報発信をし、まちづくりにさらに深く関わってほしい。地域との交流が日常的に行われていることは、この学校の素晴らしい『ブランド』である。ICT の活用は重要であるが、デジタルに偏りすぎることなく、特別支援教育がこれまで積み重ねてきた『体験を通した学び』も大切にしてほしい。多様な発達段階に合わせて、アナログと組み合わせた柔軟な教育の推進をお願いしたい。

・多くの高校からボランティアが集まるのは価値がある。同年代の若者が共に活動することは、本校の生徒にとっても地域の高校生にとっても社会に出る前の貴重な経験となっている。

（３） 協議

【令和７年度 学校経営自己評価および学校関係者評価 報告書より】

Ⅰ．本校の取り組みと自己評価について

「授業」「連携」「安心安全」の３つの柱に基づき報告した。

委員からは、全体的に厳しい自己評価だと意見があった。特に【授業】ウ「教職員の専門性の向上のためのシステムづくり」を B 評価としている理由について確認があった。本校としては、教職員の専門性について、今後もさらに高めていく余地があると考え、B 評価にしていることを説明した。これに対し、委員の方から「専門性の向上については、終わりはない。ゴールしたと思った時点で学校の成長は止まる。B評価をつけていること自体が素晴らしい」という意見をいただいた。「授業」「連携」「安心安全」の３つの柱すべてにおいて全体的に機能している。自己評価としては前向きでポジティブな B 評価であると言っていただいた。

Ⅱ．駿遠分教室の取り組みと自己評価

本校同様３つの柱にそって報告。【授業】について、課題の多い特定の生徒の指導では、「周囲の生徒とともに成長できる集団指導と個々の自己理解を深める支援の両立をしてほしい」という意見をいただいた。学校自己評価としても C 評価としている部分である。愛着障害に対する対応と授業そのものの魅力の部分とのバランスを取ることができるよう専門性の向上に努めたい。委員からは「立地としては不便ではあるが、静かで刺激の少ない環境で過ごすことができることを強みとし、取り組んでほしい」とのことだった。【安全】では「トラブル（ヒヤリハットを含む軽微な事故）対応は指導に生かせるという意味で大切だと捉えることができる」と意見をいただいた。「教職員が過度な負担を感じないように対応できないか」という分教室職員の声には「報告を紙にするのではなくデータ化して記録を活用したらどうか」との助言もいただいた。DX 化により事務負担の軽減を検討し、事例を今後の指導に生かすことができるシステム作りも進めていきたい。

（４） 次年度に向けて

【令和８年度学校経営の方向性について】校長より

今回の評価を通じ、本校・分教室ともに「地域の中にある学校」として認識していただけたと感じている。来年度は、静岡県の方針に基づき、本校では「県統一様式の個別の指導計画」への移行を進める。令和９年度からの全面運用を見据え、学習指導等量の基準性をおさえ生成 AI を活用した個別の指導計画作成に着手する。生成 AI の導入は単なる効率化ではなく、授業をさらに充実させるためのツールとして位置づけていきたい。また、本校の安全管理体制を高めるため、吉田町の防災計画や地域の取り組みとの連携を検討していきたいと考えるので、学校運営協議会でもご協力願いたい。10 周年の歩みを礎とし本校の教育活動をさらに充実させていきたいという来年度に向けての意気込みを伝えた。